

中村かずひこ通信

vol.7

【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285
ホームページ <http://www.i-berry.ne.jp/~tonpei> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp



ごあいさつ ～『市民の心がリンクしあえるまちづくり』へ～



真岡市議会議員としての任期も、早いもので折り返し地点に差しかがろうとしています。これまで市民の皆様には、常に温かいご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

昨年を振り返ると、1市4町による対等合併、さらには二宮町との編入合併がいずれも実現に至らず、地域間の考え方の違いを改めて思い知らされた1年でした。

今後、財政的な厳しさも一層拍車がかかるものと予想されます。しかし、「お金がないから何もできない、何もやらない」ではなく、「では、どうすればいいのか?」を市民、行政、議会が協働でアイデアを出しあう必要性が今こそあるのだと思うのです。そのためにも今年1年、私自身公約の1つとして掲げてきた『住民参加制度の充実』に全力を傾けていきたいと考えております。

幸いなことに真岡市内には、様々な分野で活動をしている元気な市民が大勢いらっしゃいます。そうした方々を批判せず、けなさず、みんなで支え合い、盛り上げていく『市民の心がリンクしあえるまちづくり』ができれば…。年頭にあたり、そのようなことを考えている今日このごろです。

真岡市議会議員 **中村 和彦**

その『第1歩』として…

公職選挙法により、議員が年賀状による新年のあいさつを行うことは禁止されております。ご了承下さい。

一般質問が実現しました!

『物産会館』が正月営業(1/2~3)をスタート

真岡木綿などを販売している『物産会館』は、これまで年末年始を休館としていました。そのため、特に帰省シーズンに戻ってきた真岡市出身の方々にとって、地元特産品に接する機会があまりありませんでした。

この課題について、12月議会で中村が取り上げたところ、早速今年1月2日・3日から営業がスタートすることになりました。

確かに小さな取り組みかも知れませんが、こうした積み重ねが地元の特産品を見直し、ひいては地域の誇りを創り出すことになるのだと考えております。

※ご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

「安心」と「活力」の地域づくりへ… 12月議会・一般質問

『12月定例議会』の質疑・一般質問が13日(月)、14日(火)の2日間にわたって行われました。

中村は今回、14日の2人目として登壇し、

1. 福祉行政全般の課題について
2. 高齢者福祉について
3. 芳賀赤十字病院における産科休止の問題について
4. 佐野市が進める内陸港湾の計画について
5. 真岡木綿の“地産地商”について

の5件について一般質問を行い、執行部との論戦を展開しました。

(中面に関連記事)



市民と市政の かけ橋になりたい!

☆お気軽にお声をかけて下さい。
お友達との井戸端会議、勉強会等。2～3人でも結構です。どこへでもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政に
いかしたい!

お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を!

(中村宅) TEL.82-6285
e-mail tonpei@i-berry.ne.jp



中村かずひと議会レポート

12月定例議会

答弁：福田 武隼市長
細谷 勝實助役

質問：中村かずひと

福祉行政全般の課題について



質問 現在、保健福祉部門の各課は市役所本庁舎と北側庁舎に分散しており、市民が庁舎間を右往左往するケースが見られる。栃木市では、今年度から保健福祉部門の全ての課を一箇所に移転させ、福祉の総合窓口を創設した。真岡市でも北側庁舎に保健福祉部門の全ての課を移転させるなどして、同様の取り組みを行うことはできないものか。

答弁 保健福祉部門の4課を1つのフロアにまとめることは最善の方策だが、現状の建物では困難である。現時点では、手続きで市民課との関連が多い健康増進課と児童家庭課のみ、本庁舎に配置している。今後も、市民の利便性を考慮しながら、よりよい配置を検討する。

質問 福祉サービスは突然の必要性に迫られるケースが多い。にも関わらず、サービスの具体的な内容については分かりづらいのが実情である。そこで、高齢者・障がい者・乳幼児の3分野について、福祉サービスの一覧表『福祉サービスメニュー表』を作成し、市内全戸に配布することはできないものか。

答弁 現在行っている福祉サービスは、内容が法令等によって細かく規定され、毎年のように改正されている。一覧表にして配布すると、毎年更新しなければならず、実施は難しい。今後も、広報やホームページなどで、情報提供していきたいと考える。

高齢者福祉について



質問 パワーリハビリテーションは、高齢者の方々に負荷の軽い筋力トレーニングを行っていただくものであり、介護の予防や軽減、自立回復に大きな効果があるとされている。すでに県内のいくつかの自治体では、このパワーリハビリテーションを事業化しているが、真岡市としては今後どのような形で取り組むのか、具体的な計画を聞きたい。

答弁 介護保険制度改革案では、平成18年度から『筋力向上トレーニング』などが導入される予定である。真岡市としても、市直営で実施するか、外部委託するか十分検討し、平成18年度から実施できるよう準備を進めていきたい。

質問 ケアマネージャーは、介護者1人1人の介護プランを立案し、自治体や施設などとの連絡調整をする仕事である。現在、真岡市には54名のケアマネージャーがいるが、この人数で十分と言えるのだろうか。また、今後は介護サービスも多様化するため、判定の中立性も一層求められると思う。社会福祉協議会などの中にもケアマネージャーを置くべきではないのか。

答弁 現在、54名のケアマネージャーの内、14名が看護師など他の業務と兼務し、残り40名が専任であるため、必要数は十分確保されていると考えている。ケアマネジメントの中立性をどう確保するかについては、現在国が進めている制度見直しの中で、体制の整備や研修の義務化などが検討されており、今後さらに中立性の確保が図られると思う。したがって、社会福祉協議会などにケアマネージャーを置くことは考えていない。

芳賀赤十字病院における産科休止の問題について



質問 平成17年5月1日で、芳賀赤十字病院の産科が休止する。これは新たに創設された『臨床医師研修制度』に伴い、各大学病院から派遣されていた医師が呼び戻されることになったためであるが、決して看過できる問題とは思えない。『安心な場所で子どもを産みたい』というのは、いつの時代でも女性の共通した願いであろう。そうした中であって、芳賀赤十字病院での出産件数は年々増えていた。にも関わらず、今回の産科休止が決定した訳であるが、市としては今後の影響をどのように分析しているのか。

答弁 芳賀赤十字病院では、芳賀郡市内の出生届件数約1300件のうち、約3分の1を受け持っていた。今回の産科休止によって、市内の医院だけでなく、郡市外の医療機関に今まで以上に多くの人が通院や入院しなければならず、地域医療にとって重大な事態であると考えている。

質問 産科が休止するという情報を受けて、真岡市や周辺の町ではどのような取り組みをしてきたのか。また、今後の対策は。

答弁 これまで、市や芳賀郡市町会では、芳賀赤十字病院に対して産科医師の招への要望書を出し、病院側もそうした要望書を持って、全国105ヶ所にのぼる医療機関に派遣要請をしてきた。数ヶ所の医療機関から『臨床研修が終わる2~3年後には派遣可能』という回答を得ている。しかし、それを待つだけでなく、今後も芳賀赤十字病院に対して強く要望していく。

質問 真岡市や周辺の町が協力し、産科の医師を待遇面で支援することによって、医師の招へいを推進することはできないものか。

答弁 産科医師は全国的に不足しているものであり、待遇面が原因で休止になるわけではない。しかし、赤十字社の給与体系では（本棒を上げるのは無理だが）手当面では厚遇することが可能と聞いている。芳賀赤十字病院に対して、産科医師について手当等を考慮するよう働きかけをしていきたい。

佐野市が進める内陸港湾の計画について



質問 現在、佐野市では石灰・砕石業者によって、国際港湾機能を持つ大規模内陸港湾の整備に向けた研究と準備が進められている。もともと掘削跡地であったため、すでに25万坪という広大な敷地が確保されている。こうしたものが実際に事業を開始した場合、真岡市が工業団地の企業誘致において、物流面で優位に立つ佐野市の後塵を拝すようなことになりはしないだろうか。

答弁 『佐野内陸コンテナターミナル研究会』では、今後3年間で事業が成り立つかどうかなどを検討していくと聞いている。真岡市としては、研究の進捗状況について情報収集に努めると共に、税関や検疫などの機能が整備された場合、企業誘致などにどのような影響が及ぶかを見極めていきたい。

質問 内陸港湾を積極的に活用し、中継基地的役割を真岡市に誘致・整備をする考えはないか。交通の要衝として付加価値をより高めることができ、企業誘致も有利に進められると思うが。

答弁 栃木、群馬、茨城の3県が共同で行う『広域連携物流特区構想』なども視野に入れながら、**新たな機能を有する事業所の誘致について研究していきたい。**

真岡木綿の“地産地商”について



質問 真岡木綿は手織りのため、織り手の人数を確保する必要がある。しかし、後継者がなかなか育たない現状では、発展にも限界があると考え。後継者対策について抜本的な見直しが必要ではないか。

答弁 **技術認定を受けた者については、できるだけ自立を促していきたい。**また、必要に応じた講習を継続しながら、新規希望者を募り、順次後継者の育成が図られるよう改革していく。

質問 『新世紀・公明クラブ』が視察に赴いた沖縄県石垣市では、市職員や議員がミンサー織り（石垣市の伝統的な木綿織り）のネクタイを着用したり、成人式の記念品として名刺入れをプレゼントしたりするなど、“地産地商”が推進されていることを強く感じた。真岡市としても取り組むべきではないか。

答弁 これまで、成人式・立志式や市役所各課で使用する記念品については、優先的に真岡木綿を使用してきた。しかし、**市民に理解、認識を深めてもらう努力は不足していたと感じる。**今後、PRの推進や新製品の開発、販路の拡大などに努めていきたい。

質問 これから年末年始にかけて帰省シーズンを迎える。真岡市出身者に木綿を買っていただき、今住んでいる地域でPRしてもらえる絶好の機会である。しかし、木綿製品の販売所である物産会館は、年末年始を例年休館としている。営業方針を見直すべきではないか。

答弁 試験的に来年（平成17年）から**正月2日・3日を営業日とする。**

要望 真岡木綿の“地産地商”について

真岡市出身者が故郷紹介をする時、『益子焼きで有名な益子町の隣です』という。いつの日か、**益子の隣の真岡ではなく、『木綿の真岡です』と胸を張って言っていただきたい。**
このまちの誇りの復活させる。そして**たった1つの小さな物でも市民が支え合って盛り上げていく。**真岡木綿がその空気づくりのシンボルとして位置づけられれば、と思う。その第1歩として“地産地商”や物産会館の年末年始営業を、ぜひ前向きに取り組んでいただきたい。



再質問



福祉の総合窓口について

質問 福祉関連の手続きに来た市民が市民課にも行くケースというのは、申請に住民票などが必要だからではないか。前述の栃木市では、福祉の総合窓口でも住民票の発行などを行っている。真岡市も同じようにすればよいのではないか。

また、新年度の転入転出の手続きについては、例えば東京都荒川区のように、この時期のみ臨時の特設窓口を置いて全ての手続きをしてもらえるようにすれば、課題はクリアされるように思うが。

答弁 市役所各課の配置については、平成14年度に組織検討を行い、現在の姿がより良いと結論を出した。しかし、今後も市民の視点にたった利用しやすい市役所を目指すべきであり、課の配置については、**次回の検討委員会の中で議論していきたい。**

ケアマネージャーについて

質問 今議論されている介護保険制度の見直しには、介護プランの策定について、今後はケアマネージャーだけでなく行政も関与していくべき、との考えも盛り込まれるようだ。そう考えると、行政かそれに近い（社会福祉協議会などのような）場所に専門家を置く必要性が、将来出てくるように思うが。

答弁 **職員については、市独自でも勉強会を行っており、新しい取り組みをするには支障がないと考えている。**また、市内の医療機関などにも、104名のケアマネージャー有資格者がいる。そうしたことも今後のプラスになるものと考えている。

芳賀赤十字病院における産科休止の問題について

質問 現在のように、呼びかけをして応えてくれる医師を待つことが、ベストの選択肢であるとは思えない。難しい出産が予想されるため、宇都宮など別の地域の病院へ行くよう勧められている女性もいると聞く。

より招へいしやすい環境を整えて、芳賀赤十字病院の産科が再開されるのを促すか。また、市内にある民間の医療機関同士の連携を強めるか。行政からのアプローチが必要ではないか。

答弁 **不測の事態になった場合に、地域の医院間同士で連携する体制を作っていくことが必要になると考えている。**

要望 福祉の総合窓口について

栃木市で今回、福祉の総合窓口を創設した理由は『将来的にティーチプログラム（※）をしていきたい』との考えかららしい。これは、LD（学習障がい）やADHD（注意欠陥多動性障がい）の子ども達への対応が求められることになる**全ての市町村で、将来必要になるだろう。**

真岡市の場合、北側庁舎に保健福祉部門がまとまってくれば、隣りが教育委員会でもあるため、福祉・教育双方の担当が連携するには好ましい環境になると考える。そうした視点からも、ぜひ保健福祉部門の移転と1本化については考慮していただきたい。

※ティーチ（TEACCH）プログラム…福祉サービスについて障がい児を中心に考える取り組みで、自閉症や周辺発達障がいを持つ子ども達に対して一生涯にわたる包括的な支援システムをつくること。もともと、アメリカのノースカロライナ州で実施されてきた。



会派視察研修

11月6日～9日にかけて、中村が所属する会派『新世紀・公明クラブ』では、沖縄県石垣市、那覇市、宜野湾市へ会派視察研修に赴きました。
今回は、①木綿製品によるまちおこし ②ベンチャー企業の支援策 ③男女共同参画社会に向けた施設整備の3つがメインテーマでした。



石垣市にて

伝統的な木綿織り『ミンサー織り』の会社を営んでいる高嶺幸子さんと意見交換。

同市では現在、ミンサー織りの製造・販売会社が3つあり、高嶺さんの『みねや工房』だけでも年商10億円、織り手も150名を数える。



那覇市にて

ベンチャー企業の支援施設『IT創造館』を視察。

ハード面の立派さはもちろんだが、『インキュベーションマネージャー』という企業の指導にあたる専門家を配置している所に、同市のベンチャー育成に対する強いこだわりを感じた。



宜野湾市にて

人材育成交流センター『めぶき』を視察。

このセンターは、各種女性団体の活動場所として開放されているほか、友好都市である中国・アモイ市との交流拠点として役割を果たしている。

今回の視察では、下記の金額が公費でまかなわれました。
(4日間:議員1人あたり)

総額	161,380円	出所	政務調査費
内訳	交通費、宿泊費、相手先みやげ代		

※当然のことですが、視察中の飲食代は、全て議員の自費負担です。

なお、視察の詳しい所見については、中村のホームページに掲載予定です。



中村かずひこ活動日誌

- 10/1 市政功労者表彰式に出席
 - 2 西真岡保育園運動会に出席
 - 3 真岡地区地域公民館まつりに出席
 - 6 尾崎行雄没後50年記念パーティーに出席
(於:東京都憲政記念館)
 - 8 あいさつボランティア
 - 10 真岡夢時代まつりに参加
 - 12 議員協議会
会派勉強会
 - 15 あいさつボランティア
 - 22 あいさつボランティア
『市民の会』定例会に出席
 - 26 関東甲信越国民健康保険大会に出席
 - 28 市役所各課へ陳情
 - 29 あいさつボランティア
会派建議要望の回答書受け取り
 - 30 『織姫もめんフェスタ』に出席
真岡西中学校『西輝ヶ丘祭』に出席
真岡東中学校『ひがし野祭』に出席
 - 31 大谷地区カープミラー整備に参加
-
- 11/1 真岡市市制施行50周年記念式典に出席
 - 2 市役所各課へ陳情
 - 5 あいさつボランティア
 - 6~9 会派視察(沖縄県石垣市、那覇市、宜野湾市)
 - 10 芳賀郡市町議員研修会に出席(於:市貝町)
 - 12 あいさつボランティア
 - 13 全区対抗綱引き大会に参加
 - 15 栃木市を個人視察※福祉の総合窓口について調査

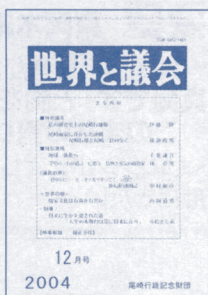
- 11/16 真岡市教育祭に出席
 - 17 ひまわり園を個人視察
芳賀赤十字病院小島院長と面会※産科休止についてヒアリング
 - 18 佐野市を個人視察※内陸港湾について調査
福田市長と面会※芳賀赤十字病院の産科休止などで意見交換
 - 20~21 大谷『伊夜日子会』研修(岐阜県高山市など)
 - 24~26 『清溪セミナー』に参加(於:東京都日本青年館)
 - 30 真岡地区PTA連絡会との懇談会
-
- 12/3 あいさつボランティア
議員協議会
12月議会開会
 - 5 『市民の会』定例会に出席
 - 7 一般質問の通告書を提出
※その後、市の担当部署と内容のすり合わせ
 - 9 真岡ロータリークラブ例会に出席
 - 10 あいさつボランティア
 - 11 仙波恒雄議員藍綬褒章を祝う会
 - 12 スペシャルオリンピック・トーチランに参加
 - 13 交通安全指導(高間木の交差点)
質疑・一般質問1日目
 - 14 議員協議会
質疑・一般質問2日目※この日、2人目として登壇
 - 15 文教常任委員会
 - 20 議員協議会
12月議会閉会
 - 24 真岡ハートヒルズを個人視察
サンタの贈り物事業に参加

お知らせ

尾崎行雄記念財団(本部:東京都千代田区)が発行している月刊紙『世界と議会12月号』にて、中村の文章が『議員の声』というコーナーに掲載されました。

議員になろうとしたきっかけや、活動を続けて感じることで、これからの思いなどを綴っています。

ご希望される方には、おゆずりいたします。



中村かずひこ未来をつくる会

中村のクリーンな政治活動を支える「中村かずひこ未来をつくる会」では個人献金に限り、カンパを受付けています。頂いたカンパは政治資金規正法にもとづいて適正に処理します。

〔振り込み先〕

真岡信用組合本店 普通口座 2099671
中村かずひこ未来をつくる会 代表 中村和彦

「超一流のいなかまち」を目指して 中村は今年も全力で挑みます!

文教常任委員会副委員長として
(行政視察での1コマ)



講師をつとめた 田中康夫 長野県知事と
(清溪セミナーにて)



全国の若手議員たちと
(清溪セミナーにて)



議会での一般質問
(定例会では、毎回質問を行っております)



ボランティアとして活動中
(サンタの贈り物事業)



真岡の夏祭りより
(「台若」で毎年
参加しています)



商店街の活性化を願って
(商店会連合会主催の研修会にて)